

及び争議團の中堅と目せらるゝものゝみなりしかば職工等の憤激一方ならず、最後の一人となるも飽迄應戦すべしと叫ぶあり、此際更に結束の鞏固なるを要すとて幹部等は翌朝第二互助俱樂部に參集し鳩首善後策に關し議を凝す處ありたり。其の餞首せられし者の數は内燃機を除き造船三十五名、電機二十七名にして無期停職は電機二十九名なり。其氏名の左の如し。

造船部

▲解備 安井喜三、和田惣兵衛、山根甚藏、喜多義一、木下佐市、中尾一登、瀬川利一、下島喜代、山田外吉、大久保吉平、岸生爲次、木原岩造、島田健二、高橋周郎、井上與三吉、坂口伸二、池田國一郎、藤川七藏、山田備一、中村伊輔、樺垣梅治、下川寅吉、高橋松之助、佐々田悅爾、吉野富太郎、宮城一二、松村村吉、川田浪太郎、松原茂夫、牛島吉嘉、森崎道一、東口由吉

三菱電機

▲解備 藤原正勝、山田彌二郎、五十嵐福治、海老原虎雄、植原繁雄、鹽月秀吉、越智幸治郎、玉利信、廣岡金太郎、山岡長五郎、菅原巖、田邊文次郎、藤本武治、江上茂逸、津田勇三郎、佐野伊三郎、吉岡藤太郎、衣笠岩次、數見善吉、品木清吉、米原謙、富田正男、松本昇、金津伊作、入田重吉、辻田貞方、廣田儀市

▲停職 平野久藏、高橋專一、井上南、古中友一、武者圓吉、本川繁藏、澁谷本吉、麓福永、濱古伊勢松、森正治、岡本武雄、辛鐘潤、有井朋一、岩淵多市、西原伍助、澤田巳之助、秋田松治、井上豊晴、山内良平、山下隆喜、山縣嘉市、玉井庸、伊藤順治郎、土井芳造、久保慶藏、山根満吉、福永基一、佐野友次、中田庄松

右の解雇者に對しては會社側にては解雇手當を支給せず、職工側は會社の此處置を甚だし憤り其

の不當を詰りて一般輿論に訴へたり。

「註」會社側辯明 「會社も今回の事件突發以來、出來得るだけ穩かな態度を執りましたが休業十日後の今日未だ秩序恢復の曙光すら認めない以上、工場秩序の破壊者に對する會社の處置も亦止むを得ない事です。廿一日附を以て解備を言ひ渡した者の中には委員の外にも夫れと認め又會社に證據を擲んでゐる者は此際總て處分した迄です。解職手當を給せぬ譯は職工規則に違反した行為のあつた結果ですから致し方がありません。只今回の處置解職は非常に公平な見地から下されたので職工には何等言ふ所が無からうと思ひます」云々 (七、二三、神戸又新)

二、川崎争議團の盟休決議

紛糾日を久しうして解決の兆なく徒らに勞資兩者の感情の疎隔せらるゝを見て憂慮せし川崎造船所造船工作部の伍長、工場長等が、争議解決の爲め奮然起ちて會社側當局に會見、種々諒解に努めし事は前回に既述せり。而かも其の結果は豫期の如からず、職工團は亦格別に工、伍長團に信頼せず、其の解決は何れの日に於て招來せらるゝや川崎造船所の争議は前途尙暗澹たるものありたり。職工側も會社側も互に相手方の動靜監視怠る處なく、前者は結束に努め後者は切崩しに腐心せり。而して鎬を削りて互に宣傳に努むる處あり、職工側が連日連夜演說會に氣勢を揚ぐるに對し會社側にては印刷物に依るの方法を取り、二十一日各新聞紙上に左の如き大廣告を爲せり。

神戸市民各位に謹告す

此月初より弊社内に發生したる労働争議の爲め市民各位に御迷惑相懸け候段偏へに恐縮の次第にて陳謝其辭を知らざる處に御座